荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

地域医療連携だより

小岱

第39号
（令和2年5月発行）

地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関　臨床研修病院（基幹型・協力型）
日本医療機能評価機構認定　第2種感染症指定医療機関　地域周産期中核病院

新年度のご挨拶

平素より、患者さんの紹介・逆紹介・救急搬送等を通して効率的医療の推進にご協力いただいております、各医師会・歯科医師会・薬剤師会・消防本部・その他の連携機関の皆様におかれましては、少子高齢化・核家族化が進む中、地域住民の健康を維持するためにご尽力いただき誠にありがとうございます。

2020年度（令和２年度）を迎えまして、例年５月に地域医療連携懇親会を通して新年度の当院のご紹介を行っておりましたが、今年はCOVID-19の大流行により、感染防止目的に“３密”を控えなければならず、やむなく懇親会を中止することにいたしました。そこでこの“小岱”紙面にて当院の紹介および挨拶をさせていただきますのでご了承下さい。

さて、当院は第２種感染症指定医療機関の指定を受け、COVID-19に対しても積極的に診療を行っておりますが、国から地域がん診療連携拠点病院、また、県から脳卒中急性期拠点医療機関・心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院の指定を受け、荒尾市唯一の高度急性期病院という立場で地域医療連携に関わり荒尾地域住民の健康の維持・増進に努めているところです。さらに、今年の２月に災害拠点病院の指定も受け、広域大規模災害に際しても住民の健康維持の拠点として活動することが決まりました。

COVID-19の感染拡大が懸念される中、現在、一時的に健診業務を停止し、緊急性のない手術・検査を延期して、COVID-19の感染拡大を予防しているところであります。しかし、緊急性を要する疾患に対しては通常通りの診療を行っており、各疾患の救命率向上に向けて全力をあげて診療いたしております。現在、当院では院内感染予防のため、外来受診時に体温・風邪症状などのチェックを行い、必ずマスクを着用していただくようお願いしております。多少面倒なこととは存じますが、院内感染を起こしますと一時的に外来機能を停止せざるを得なくなりますので、ご協力をお願いいたします。

近年は、荒尾有明地域において、病診連携が浸透し医療の効率化が確実に進んでいます。急性期・重症者は荒尾市唯一の急性期病院である荒尾市民病院が責任を持って担当し、急性期を過ぎたら紹介医の医師会の先生方に引き継いでいただくという連携関係が良好に機能していると言えます。当院が急性期機能を維持できますのは、たとえ急病であっても軽症者は医師会の先生方が積極的に救急車の受け入れを行っていただいているお陰であり、心より感謝申し上げます。

次に、新病院建設ですが、計画通り順調に進んでおり、現在、基本設計作成が終了し実施設計に入る段階で、今後、いよいよ建築着工へと進んで参ります。荒尾市唯一の急性期病院として機能すべく、災害拠点病院・地域救命救急センターの指定要件を満たす病院建設です。急性期病室は、基本的に個室とし、患者のプライバシー保護および快適な短期入院生活を支えます。今回のCOVID-19で証明されましたように、個室管理は今後の急性期病院として必須な条件です。

最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。本年度も何卒よろしくお願いいたします。

院長　勝守高士

昇任医師紹介

内科診療部長　兼　健康管理センター部長

氏　　名　鶴田　敬一郎（つるた　けいいちろう）

専　　門　健診・人間ドック・一般内科

出身大学　宮崎医科大学

所属学会
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本総合健診医学会・日本人間ドック学会
人間ドック健診専門医
日本プライマリケア連合学会　認定医・指導医
日本医師会認定産業医
厚生労働省・文部科学省　公認心理士

このたび、内科診療部長兼健康管理センター部長を拝命いたしました鶴田と申します。もともとは循環器疾患の診療にあたっていましたが、その中で予防医学の重要性を再認識し、現在は健康診断など、疾患予防を中心とした仕事に従事しております。新型コロナウィルス感染症という新たな脅威の中、市民病院の医師として、緊張感を保ちつつ、積極的に地域医療へ取り組んで参ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

心臓リハビリテーション部長

氏　　名　山村　智（やまむら　さとる）

専　　門　循環器内科

出身大学　長崎大学

資格/認定
日本内科学会　専門医・指導医
日本循環器学会　専門医

所属学会
日本内科学会、日本循環器学会、日本心不全学会、
日本心血管インターベンション治療学会、
心臓リハビリテーション学会、国際心臓研究会、
日本心血管内分泌代謝学会

趣　　味　旅行

この度、心臓リハビリテーション部長に昇任いたしました循環器内科の山村です。昨年度より当院に着任し、はや１年が経過いたしました。まだまだ未熟な面が多々ありますが、より一層、荒尾市の地域医療に貢献していきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

昇任医師紹介

救急科医長

氏　　名　田畑　輝海（たばた　てるみ）

専　　門　救急科

出身大学　東京大学

資格/認定　救急科専門医、JATECインストラクター

所属学会　日本救急医学会、日本集中治療医学会

趣　　味　ピアノ、料理、旅行

早いもので、当院７年目になります。昨年、無事専門医も取得いたしました。

地域の医療・介護機関の方にはこれまでも様々な場面でご協力をいただきましたが、昨年度末より新型コロナウイルス感染症担当となり、これまで以上に皆様にご協力をお願いすることが多くなると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

今後も救急を中心にこの地域の医療の充実のために精進する所存です。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

整形外科医長

氏　　名　米村　光信（よねむら　みつのぶ）

専　　門　整形外科

出身大学　長崎大学

所属学会　日本整形外科学会
西日本整形・災害外科学会

趣　　味　車　お酒

この度、整形外科医長を拝命しました米村光信と申します。研修医として勉強させていただいた当院で役職を拝命し光栄に思うと共に身の引き締まる思いです。

これまで以上に急性期病院の整形外科医として、診療を頑張りたいと思います。

まだまだ勉強中の身ですので、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

麻酔科医長

氏　　名　森　侑治（もり　ゆうじ）

専　　門　麻酔科

出身大学　福岡大学

卒業年　2010年

資格/認定　麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定医
臨床研修指導医

所属学会　日本麻酔科学会、日本区域麻酔学会
日本産科麻酔学会

趣　　味　娘と水族館へ行く　ビリヤード

はじめまして。私事ながら、家内が玉名出身ということもあり、今回、玉名市に越してきました。有明地域の医療に微力ながら貢献できるよう努めます。

また、麻酔科医として患者様に安心して手術を受けて頂けるよう安全で質の高い周術期管理を常に心がけています。

血液内科医師

氏　　名　金池　俊夫（かないけ　としお）

専　　門　血液内科

出身大学　熊本大学

卒業年　2015年

資格/認定　認定内科医

所属学会　日本血液学会、日本内科学会

趣　　味　旅行　読書　スポーツ観戦

皆様、初めまして。愛知県生まれ、熊本大学出身の金池俊夫と申します。熊本大学入学を機に熊本に参りまして、住みやすく居心地が良いので、卒業後も熊本に残り、日々励んでおります。荒尾は全く初めてですが、一日も早く生活・仕事に慣れ、頑張って参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

循環器内科医長

氏　　名	満瀬　達郎（みつせ　たつろう）
専　　門	循環器内科
出身大学	熊本大学
卒 業 年	2011年
資格・認定	内科認定医
所属学会	日本循環器学会、 日本心血管インターベンション治療学会
趣　　味	スポーツ観戦　競馬

１０年目、循環器内科所属の満瀬と申します。循環器疾患を通して有明医療圏の医療に貢献して参りたいと思います。これからよろしくお願いします。

腎臓内科医長

氏　　名	深川　三希子（ふかがわ　みきこ）
専　　門	腎臓内科
出身大学	佐賀大学
卒 業 年	2013年
資格・認定	内科認定医、透析専門医、腎臓専門医
所属学会	日本内科学会、日本透析医学会、 日本腎臓学会

熊本大学病院から赴任しました腎臓内科の深川です。卒後８年目になります。荒尾は大学のある佐賀から実家の八代までの行き帰りの際に通った事はありますが、住むのは今回が初めてです。特に腎不全や透析の患者様に関わらせていただく機会が多いかと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、よろしくお願いいたします。

整形外科医師

氏　　名	柴田　悠人（しばた　ゆうと）
専　　門	整形外科
出身大学	岐阜大学
卒 業 年	2015年
所属学会	日本整形外科学会
趣　　味	読書　ランニング

４月から整形外科医として、荒尾市民病院に赴任しました柴田悠人と申します、現在、専門はなく外傷を中心に診療を行っています。荒尾市の医療に少しでも貢献できればと考えておりますので、積極的な治療が必要な症例等、ご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

新任医師紹介

脳神経外科医長

氏　　名	今岡　幸弘（いまおか　ゆきひろ）
専　　門	脳血管障害
出身大学	熊本大学
卒 業 年	2013年
資格・認定	脳神経外科専門医 脳血管内治療専門医
所属学会	日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会 日本脳神経外科コングレス 日本脳神経血管内治療学会 日本神経内視鏡学会 日本脳卒中の外科学会
趣　　味	サッカー観戦　テニス　ゴルフ

医師８年目、脳外科医としては６年目となります。築山小・玉名中出身であり、多くの知人が生活するこの有明地域での診療に従事できることとなり、非常に嬉しく思っています。近年、脳卒中治療、特に、急性虚血性脳卒中治療の発展は目覚ましく、その一方で医療の質という点での地域間格差の是正が今後の急務であると感じます。若輩者ではありますが、所縁あるこの地域の方々に自分なりにできることを考えて、少しでも恩返しができればと考えています。何卒よろしくお願いいたします。

皮膚科医師

氏　　名	山村　修司（やまむら　しゅうじ）
専　　門	皮膚科
出身大学	熊本大学
卒 業 年	2017年
所属学会	日本皮膚科学会
趣　　味	将棋　野球観戦　バドミントン　海外旅行

皮膚科新任医師の山村修司と申します。福岡県大牟田市出身で、荒尾には小さい頃によく遊びに行った思い出があります。

今回、荒尾市民病院で皮膚科医として働くこととなり、まだまだ未熟者ではありますが、少しでも地域の皆様に貢献できるよう尽力していきたいと思っております。至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導、ご鞭撻の程、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　山田　理史（やまだ　ただし）

出身大学　九州大学

卒業年次　2020年

趣　　味　スポーツ観戦、落語鑑賞
旅行、スキンケア

【自己紹介】
九州大学出身の山田理史と申します。基幹型なので、２年間お世話になります。
国家試験に合格しただけの状態ですので、わからないことばかりですが、一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　杉野　大樹（すぎの　ひろき）

出身大学　熊本大学

卒業年次　2020年

趣　　味　家でゴロゴロ

【自己紹介】
学生の頃は、早く医師になりたいと思っていましたが、医師になった今は医師になれた喜びよりも、患者さんの生死や今後の人生を左右する責任ある立場になったことに不安や恐怖を抱いています。そのような気持ちを少しでも払拭できるよう、日々研鑽を積み、医師として成長できるよう精進して参りたいと思います。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　内藤　貴一（ないとう　きいち）

出身大学　熊本大学

卒業年次　2020年

趣　　味　PC、ハードウェアいじり

【自己紹介】
ハードウェアは料理に使う低温調理器や人工呼吸器のような機械のことです。PCをいじったりするのもゲームをするのも好きです。機械の使い方に詳しくなることで皆様のお役に立てたらと思います。知識にあまり自信はありませんが、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　坂田　準（さかた　じゅん）

出身大学　近畿大学

卒業年次　2020年

趣　　味　野球、釣り、車、食べ歩き

【自己紹介】
研修医として２年間、荒尾市民病院にて働くこととなりました。荒尾市にて生まれ育ち、大阪府にあります近畿大学を卒業し、本年より荒尾市に帰郷しました。この２年間で医師として必要な知識・技術・コミュニケーション能力・心構え等学ばせていただきます。ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

協力型研修医

氏　　名　阿字野　愛（あじの　まなみ）

出身大学　熊本大学

卒業年次　2019年

趣　　味　ネコの動画をみる
バドミントン

【自己紹介】
長崎県出身で熊本大学を卒業し、１年目は国立病院で研修していました。荒尾に住むのも働くのも初めてで分からないことばかりでご迷惑をおかけすると思いますが、荒尾の医療に少しでも貢献できるよう精進してまいります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　山木　勇人（やまき　はやと）

出身大学　熊本大学

卒業年次　2020年

趣　　味　サッカー

【自己紹介】
本年度より初期研修医として２年間荒尾市民病院に勤めさせていただくことになりました。生まれは熊本県南区です。
地域の中核病院に勤めさせていただく責任と自覚を持ち先輩方の助けを借りながら努力を惜しまず日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

基幹型研修医

氏　　名　佐々木　亨（ささき　とおる）

出身大学　久留米大学

卒業年次　2020年

趣　　味　卓球

【自己紹介】
愛媛県出身です。私が小さい頃によく訪れていた父のふるさとに荒尾市が似ているとことがあるので親近感があります。荒尾市民病院を志望した理由は先生方やスタッフの方の和気あいあいとしてた雰囲気に惹かれたからです。患者さん、先生方、スタッフの方々からよく学び、地域に貢献できるように頑張っていきたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

診療科紹介

小児科入院診療一景

小児科部長　藤井 績

小児、とくに乳幼児はRSウィルス、ヒトメタニューモウィルス等の感染症に伴う細気管支炎罹患あるいは気管支喘息発作の際には容易に呼吸障害をきたします。喘鳴が聴かれ、鼻翼呼吸や陥没呼吸が強まってきて、さらにSPO2の低下がみられるようになれば入院加療の適応です。呼吸の安定化を図るために酸素投与が必要ですが、多くの患児は酸素マスク、鼻カニューラの装着をいやがります。当科では、このような患児には酸素テントを導入しています。

左写真のようにアルミフレームにビニールフードを被せた装置です。頭側にある氷室に氷を入れることで庫内の乾燥を防ぎ温度を24℃前後に酸素を2～10L/min供給することで庫内の酸素濃度を25～50%に保つことができます。必要に応じモニター監視下にイソプロテレノール持続吸入も実施可能です。

入眠したころを見計らって全身をすっぽり収容、患児は良眠が得られるようになります。目を覚ました時はさすがに驚いて泣き出しますが、庫外に出ると呼吸が苦しくなるのを自覚し、庫内の快適さを学習するのか、数日の後には自ら進んでテント内に入ろうとする児もいます。古くからある装置ですが、デバイスの装着という苦痛から解放されるため、乳幼児の呼吸管理にはたいへんに効果的で重宝しております。

なお、今年度４月から当科はふたたび一人体制となりましたが、入院治療につきましてはかわらず対応させていただいております。ご施設での通院治療が困難となられた折りにはご紹介を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病 院 紹 介

災害拠点病院関連

救急科部長兼統括診療部長　松園　幸雅

有明医療圏は直線で東西約22km、南北約30km、面積で421.4㎡を有し、約16万人が暮らしています。その中で当院は有明二次医療圏の救急病院として重要な役割を担っています。

既に隣市の公立病院が災害拠点病院の指定を受けていますが、予測できない自然災害や広域に及ぶ災害が発生している昨今では当医療圏を１医療機関だけで対応することは難しいことが予想されます。

また、当院は熊本県の最北端に位置していて、隣接する大牟田市をはじめとする福岡県南部から佐賀県までの近隣地域で災害が起こった場合にも県境を越えて支援活動が可能と考えられます。

現時点では地震等の大規模な災害による被害等は経験したことはありませんが、平成28年4月に発生した熊本地震では、荒尾市でも14日の前震時に震度4、16日の本震時に震度５弱の大きな揺れに見舞われました。

幸い荒尾市内での被害報告は無く、当院でも建物等が使用できなくなるような大きな被害は発生しませんでしたが、熊本地域や阿蘇地域においては病院などの被害はもちろん広域的なインフラなどの破綻により、多くの施設で想定外の事態に遭遇し、重要業務が中断するなどの問題点が発生しました。

当院は、開設以来、有明地域の医療において重要な役割を担い続けてきており、今後も引き続き地域住民の期待に応え続けていかなければならないと考えています。

これまでも様々な災害対策を講じて、最近では東日本大震災、熊本地震での医療支援を経験し、更に令和５年度開院予定の新病院建て替えの機会を得て、災害拠点病院の指定を目指してきました。

他二次医療機関、歯科医師会および警察の訓練

災害医療に関する活動として

1.市の防災訓練に併せて多数傷病者の受け入れ訓練（毎年）

　毎年秋に行われている荒尾市の防災訓練に併せて、有明高校の学生さんの協力を得て、多数傷病者の受け入れ訓練を行っています。令和元年の訓練では公立玉名中央病院よりDMATの派遣を、また、荒尾市医師会、荒尾市歯科医師会、荒尾警察からも派遣をいただき、実施しました。

２.災害拠点病院の指定を見据えて事業継続計画（BCP）

　厚生労働省の「医療計画の見直し等に関する検討会」でも議論されているように、当院では令和５年度開院予定の建て替えの計画が進む中で、災害拠点病院の指定を見据えて事業継続計画（BCP）を行っています。

　災害発生時に必要な簡易ベッド（備蓄ベッド計50台、段ボールベッド100台）の用意、入院患者、職員用に加え、帰宅困難者等用の食糧・飲料水の3日分の備蓄を行っています。

３.東日本大震災、熊本地震でのJMATとして医療支援

　荒尾市医師会のＪＭＡＴチームと共同で、気仙沼市へ医療救護班を、熊本地震では益城町に複数回にわたりＪＭＡＴを派遣しました。

４.熊本地震では県災害コーディネーターの派遣

　熊本地震の急性期には、熊本県庁内に設置された災害対策本部へ、亜急性期（１週間後）からは医療救護調整本部へ災害コーディネーターを派遣しました。

これらを踏まえた上で、県庁医療政策課とも複数回の協議を重ね、災害拠点病院指定に向けて準備をしてきました。

具体的には衛星電話・衛星インターネットの導入、簡易ベッドの保有、食糧備蓄の増強等の準備をしています。

昨年中に有明地域保健医療推進協議会での同意を得て、有明地域災害医療対策会議での提案・承認されています。

2019年11月には DMAT隊員養成研修に医師・看護師・事務調整員総数5名が参加して、DMATとして隊員登録がされました。

2020年1月8日にDMAT指定病院、同年2月13日に正式に災害拠点病院の指定を受けました。

今後は熊本県が定める医療計画において示されているように、当院は大災害発生時に有明地域の住民に対し、安心安全の医療を提供すること、また、大災害時における広域からの患者の受入れに対応できる体制を整えた災害拠点病院としての役割を果たすことになります。

Information

令和２年４月より、耳鼻咽喉科の外来診療が開始となりました。

月	火	水	木	金
	熊本大学病院 非常勤			

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。
2 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者様の権利と責務》

1 あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
2 あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
3 あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
4 あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
5 あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
6 良質な医療を実現するため、医師等に患者さまご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
7 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
8 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」　第３９号　令和２年　５月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537）　FAX：0968-62-4543
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -